

第 36 回福島問題研究会議事録（ダイジェスト版）

1.日時 30年11月19日(月) 14:30-17:00

2.場所 化学工学会 会議室

3.出席者 小林、横堀、中尾、橋本、戸井田、牛尾、伊達、松井（記録）

4.議事内容

(1) 前回議事録の確認

(2) 関連情報紹介

2.1 鈴木俊一氏(東大特任教授)訪問

- ・ 廃炉処理では **Unknown-unknowns** が多く通常の **Risk** 管理ができない。
- ・ **WBS** は、工法が決まっている場合には有効だが決まっていない場合違
- ・ 廃炉処理の考え方には再処理の概念が必要。TMI の成功が福島廃炉の自由な発想を阻害している。冠水工法は冷却機能と飛散防止機能がありそれなりの意味がある。ジオポリマーは珪酸系のポリマであり、水素の発生しないセメントとして機能する。
- ・ **WBS** についてはプロセスが固まっていないので現時点ではあまり意味がない。
- ・ **SCE-Net** との協力関係については、現時点では直接の接点は見出せなかったが、引き続き協力関係を保つことが重要と認識。

2.2 2F の見学会は来年3月で先方と引き続き協議中

2.3 横堀幹事から、下記催しへの参加報告あり。

- ・ 第19回 SNW シンポ
- ・ 蔵前工業会科学技術セミナー 原子力研究が目指すものは何か
- ・ 大飯発電所・原子力訓練センター見学会と地域交流会

(3) 俯瞰マップで意見交換；鈴木先生の俯瞰マップは、6段階にエンドステートが分けられているが、各段階毎の「枝」にふくまれるミッションに付き議論を、特に化学工学にこだわらずに、次回研究会から進める。

(4) 20周年記念誌の記載内容；横堀幹事の方で引き続き検討。

(5) その他

小林顧問から化学工学会福島廃炉研究会の運営の仕方について、12月の幹事会で下記のような事項につき発言いただく。

(1)提言の実現

(2)学協会に出席して情報交換、報告を聞く。

(3)吸着の評価???⇒プロジェクト提案、大学の化学工学関連の学科で出来ることとして、吸着材の開発、学生実験への福島関連テーマの取り込み、等々

以上